

NEWS TOPICS

今号では、前号に引き続き、令和4(2022)年度に完成した2例のうち、歴史的建築物1例をご紹介します。

<半田本家住宅>

紀州街道沿いにある慶応年間(1865~68年)の建物で、屋根・庇を葺き替え、銅製の樋を新設し、外壁は漆喰塗と板張りで、出格子、駒寄も修繕されました。2階部分の卯建・虫籠窓も復原され、外構部の高塀も屋根を葺き替え、漆喰と腰部板貼で修景しています。



堺

環濠都市

NEWS

[ニュース]



発行日：2023.10.6
発行者：堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
編集：協議会 + SANTO DESIGN STUDIO
連絡先：〒590-0930 堺市堺区柳之町西1丁1-28
TEL.072-228-0953(志賀)
URL：http://sakaimachinami.jp/

歴史的まちなみを
未来に活かすため

協議会最終年度の行灯展示が
無事開催されました!

vol. 38

INFORMATION

▶町なみ再生イベント週間[10/28(土)~11/5(日)に開催]

<イベント・その1> 展示「『堺環濠都市』の記憶を伝えるために」
日時：イベント週間期間中、11/4までの13:00~16:00 場所：堺町家案内所(北旅籠町大道西・内田家住宅1F)

<イベント・その2> 特別開催：町なみ再生連続講座 最終回(総第10回)
日時：11/5 13:30~16:00 場所：錦西公民館(堺市立青少年センター2F)

「大きく変わりつつある『文化財』の考え方—保存から活用へ—
講師：中川 理氏(京都工芸繊維大学名誉教授・神戸女子大学客員教授) ※詳しくは、「イベント週間」についてのチラシをご覧ください。

▶町なみ再生シンポジウムIIIのお知らせ 「歴史的景観の未来~『堺環濠都市』の記憶を伝えるために~」

12月10日(日) 場所：開口神社・瑞祥閣(集会室・羽衣)堺区甲斐町東2丁(山之口商店街に隣接)
時間：13:00~

※詳しくは、今号前ページをご覧ください。

※予定は変更になることがあります。

▶協議会へのお問い合わせはこちら
堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
TEL 072-228-0953 [志賀]
MAIL info@sakaimachinami.jp

▶「まちなみ修景補助制度」へのお問い合わせはこちら
堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室(景観グループ)
TEL 072-228-7432
FAX 072-228-8468

今号の表紙

今号の表紙は、郷土画家・岸谷勢蔵の「宿院方面戦災の図」です。岸谷は、堺環濠都市の中心部にある大町(おおちょう)の商家に生まれ育ち、終生、郷土堺を愛して止まず、その歴史的な変貌を描き続けました。戦時中には、「堺芸術報国連盟」の一員として、「堺市第一次疎開地区記録」等の制作にも参加しました。第2次世界大戦の末期、堺の旧市街地は5回にわたる空襲を受け、北部地区を残して大半が焼け野原となりました。表紙の絵には、左下に「昭和二十年七月十日戦災 翌日写生」との書き込みがありますので、第4次空襲の直後に描かれたことがわかります。描かれているのは、路面電車の線路を中心とした市街地の衝撃的な被災状況です。この写生図によって、従来の環濠都市の大半がこのような状況であったことを目の当たりにする時、戦災を免れて、現在まで残されている「元禄堺大絵図の町」(=堺環濠都市北部地区)の存在がいかに貴重なものであるかを、誰もが理解できるのではないのでしょうか?この写生図を見る度に、私たちに、現在まで生き残った、この「希有な歴史都市」を未来に向けて活かしていく使命があるということに気付かざるを得ません。(「岸谷勢蔵画 堺市第一次疎開地区記録を読む」<堺市博物館 2011>、「平和のいち 堺戦災関係資料集」<堺市人権啓発局 1986>参照)



岸谷勢蔵 画「宿院方面戦災の図」(堺市博物館蔵)

前号NEWS発行から
現在までの進捗情報

協議会最後の地藏盆の行灯展示は、天候不順のため、 8月28日(月)・29日(火)に延期して開催しました!

8月28日(月)18時～21時・8月29日(水)9時～10時
〈第1会場〉櫻館(桜之町西3丁の六間筋)／〈第2会場〉来迎寺門前の駐車場(綾之町西2丁)

今年も、昨年と同じように、希望者に各自描いていただいた絵をお預かりするというやり方で、例年通り地藏盆の23日・24日に、例年と同じ会場で展示する予定でした。ただ、最初にも説明しましたように、台風の影響もあって天候が安定せず、結果的に雨が降ったのは展示予定時間が過ぎてからでしたが、地藏盆当日の展示は見合わせました。

絵は水彩絵具で書かれているので、少しでも雨に濡れると滲んだり流れたりしてしまいます。皆さんに一生懸命描いていただいた絵を濡らすことはできませんので、大事を取って延期して開催しました。おかげ様で、28日・29日は天気も良く、安心して展示することができました。ただ、今回は、地藏盆当日ではなかったため、いつもの地藏盆の提灯がなく少し寂しい思いもしましたが、皆さんに描いていただいた力作ぞろいの行灯で、最後の年も華やかで和やかな時が流れました。

初めて地藏盆の行灯を制作して、展示したのは2018年です。一度コロナ禍で中止せざるを得ませんでしたが、あと5回は続けることができました。絵を描いて参加して下さった皆さんや設営をお手伝いいただいた方々、そして何よりも、主な展示場所である駐車場を解放していただいた来迎寺様のご協力がなければ開催できませんでした。最後に、ご協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。



町なみ再生シンポジウムIIIのお知らせ(前号で予告)

「歴史的景観の未来 ～『堺環濠都市』の記憶を伝えるために～」

日時: 2023年12月10日(日) 13:00～ 会場: 開口神社・瑞祥閣(集会室・羽衣)堺区甲斐町東2丁(山之口商店街に隣接)

今回は、昨年連続3回の予定で開催している町なみ再生シンポジウムの3回目、つまり最終回です。最終回に当たり、今後、希有の歴史都市である「堺環濠都市」を未来に活かしていくためには、どのような取組が必要なのか、「堺環濠都市」の記憶を現代に留める北部地区で、現在まさに調査研究活動をされておられる先生お二人にお話を伺い、参加者で考える機会にしたいと思います。

<第1部> 基調講演: 「環濠都市堺と鉄砲鍛冶屋敷～井上関右衛門家調査で考えたこと～」(仮題)

講師: 藪田 貫氏(関西大学名誉教授・兵庫県立歴史博物館館長)

鉄砲鍛冶屋敷の調査・研究を通して歴史都市・堺について、お話いただきます。

基調講演: 「文化的景観による堺環濠都市北部地区のまちづくりの可能性について」

講師: 清水 重敦氏(京都工芸繊維大学教授)

昨年度の堺環濠都市北部地区伝統的家屋調査を踏まえて、引き続き、文化的景観の視点から、今後の北部地区のまちづくりの可能性について、お話いただきます。

<第2部> 共に考える「堺環濠都市北部地区の未来」

来年3月3日に、新しく堺市立町家歴史館(鉄砲鍛冶屋敷)が開館する予定です。しかし、その周辺の町家などの修景補助制度である「まちなみ再生事業」は、開館の次の年度で終了予定です。今後、堺市や国の補助がなくなり、歴史的景観を活かしていくまちづくりは、いっそう困難になるとも考えられます。しかし、この状況の中で、私たちに何ができるのか、今しっかりと、将来を見据えて考えるべき時ではないでしょうか?